

医師会の独立性に関するWMA決議

2011年10月、ウルグアイ、モンテビデオにおける第62回WMA総会で採択

各国医師会は、その国の医師の代表として行動し、その代表として交渉するために設立されており、ある時は労働組合ないし規制機関としてだけでなく専門職団体として、公衆衛生や福祉にかかわる問題について医師の専門的意見を表明している。

各国医師会は、医師の意見を代表しており、これには倫理に則った医療、質の高い医療の提供、すべての医師による高水準の医療の維持を保証することも含まれている。

各国医師会は、しばしば公衆衛生の分野等において、会員を代表して活動または主張することもある。そのような主張は、実際には医学的エビデンスの理解および患者や人々のニーズに基づいているにも場合においても、政府の政策への反対意見が含まれていると考えられることがあるため、政府から常に歓迎されるわけではない。

WMAは、医師会の政策提言を政府によっては自らが指名した医師の代表者を政府内の権威ある地位につけることによって医師会を沈黙させ、その提言を政府が容認できるものへ覆そうと試みていることを認識している。

WMAは、このような行動を糾弾し、いかなる政府も各国医師会の独立性を保つ機能を妨げないよう求める。WMAは、各国政府が自国民の健康および福祉改善のために、自国医師会の仕事の内容や背景をより理解し、医学的エビデンスに考慮し、医師と共に取り組むよう、各国政府に勧告する。

